

研究主題

「教員の授業改善につながる校内研究支援の在り方」

副題

～研究推進校が目指す児童の具現化と教員一人一人の
自律的な学びに資する校内研究支援を通して～

山梨大学アドバイザー

河野 瑞穂
角田 大輔
樋川 裕幸

所内アドバイザー

平沼 公香
外川 陽清

センター指導主事

渡邊 昭二郎	渡邊 信也
志村 貴美子	小林 裕直
有賀 拓也	

内 容

- 1 研究の目的・方法
- 2 研究推進校が目指す児童の具現化への支援
- 3 教員一人一人の自律的な学びへの支援
- 4 研究の成果及び課題

1 研究の目的・方法について

〈研究の目的〉

教員一人一人の授業改善につながる校内研究を目指す
本センターの支援が、研究推進校に対してどのような成果
と課題をもたらしたかを検証し、学校における校内研究へ
の支援の在り方を探る。

1 研究の目的・方法について

〈研究の方法〉

- ・校内研究の運営に関する連絡を密にし、**管理職や研究主任との連携**を図る。
- ・研究主題を具現化するために、**学習会、指導案検討、研究授業、研究会などにおいて情報提供や指導・助言**をする。
- ・PDCAサイクルに基づいた**教員の授業改善を支援する作成物を活用**し、教員の自律的な学びを促進する。
- ・**検証の手立てとして質問調査**を実施し、校内研究に対する意識の変容を見取る。

研究主題「教員の授業改善につながる校内研究支援の在り方」

副題 ～研究推進校が目指す児童の具現化と教員一人一人の自律的な学びに資する校内研究支援を通して～

研究推進校が目指す児童の具現化に資する支援

教員一人一人の自律的な学びに資する支援

2 研究推進校が目指す児童の具現化への支援

研究推進校について

大月市立鳥沢小学校

研究主題

「主体的に学びに向かう児童の育成」

副題 ～探究的な学習過程に重点を置いて～



2 研究推進校が目指す児童の具現化への支援

◇本シート活用の目的・研究主任が自校の校内研究を計画する際に活用する。作成したシートを基に、研究推進委員会や校内研究会等において、全教職員で研究の概要を共有する際に活用することもできる。

() 小学校 校内研究メイキングシート

学校教育目標	児童の実態
	児童の「よさ」や「課題」等を明らかにし、整理します。
目指す児童の姿	
○学校教育目標や目指す児童の姿を踏まえ、校内研究の方向（主題・重点化する資質・能力・具体的な手立て）等を整理します。	
研究主題	
今年度重点的に育成を目指す資質・能力	具体的な手立て

月	日	回	校内研究の目的	校内研究の内容	成果・課題
4	12	1	例) これまで本校で継続している取組を確認し、今年度の校内研究の共通理解を図る。	今年度の研究の方向性 これまで継続している取組の確認 CRTの分析について	例) 成：研究主題は共通理解が図れた。 課：手立てについてはより具体的な方法を再検討する。等

○校内研究会を計画・実施し、成果と課題について振り返ることで、校内研究会を評価・改善することができます。また、組織的に校内研究を進めることができます。

例えば、学期ごとに成果や課題、目指す児童の姿や育成を目指す資質・能力の達成状況等を振り返ることで、次学期への取組に生かすことができます。

(鳥沢) 小学校 校内研究メイキングシート

学校教育目標 考える子 やさしい子 元気な子	児童の実態 本校の児童は、教師から出された課題に対して意欲的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見つけて、取り組もうとする姿がやや弱い。
目指す児童の姿 見通しをもって、主体的に学習に取り組む児童	
研究主題 主体的に学びに向かう児童の育成 ～探究的な学習過程に重点を置いて～	

今年度重点的に育成を目指す資質・能力 自ら問う力 ・既習事項を問う。 ・根拠を問う。	具体的な手立て ・児童に問いを持たせ ・学んだことを振り返る。
---	---------------------------------------

月	回	校内研究の目的	校内研究の内容
4	10	1 教師用のPCの使い方を確認する。 児童の実態を把握する。(QU CRTテスト) 学びに向かう児童を育成するための手立て、学習活動を知る。	授業の中で効果的にPCの活用方法を知る。 昨年度実施したQU CRTテストの結果から児童の実態をつかむ。 講師 山梨教育センター 指導主事を招聘しての学習会を通して、学びに向かうためにはどのような手立て、活動が必要であるのかを知る。
4	24	2	講師 山梨教育センター 指導主事を招聘しての学習会を通して、学びに向かうためにはどのような手立て、活動が必要であるのかを知る。
5	22	3	今年度の校内研究の概要を確認する。 1・2回目の校内研究を通して、今年度の研究の方向性を共有する。

6	17	4	算数科にける探究的な学習について学ぶ。 本校の児童の実態(算数科)を把握する。	講師 山梨大学大学院 准教授 角田大輔先生を招聘しての学習会を行う。 全国学力・学習状況調査(算数科)の自校採点をする。	児童に問いを持たせる授業についてイメージをもつことができた。今後、児童に問いを持たせる授業を実践することができるように、教職員間で手立て等を共有する必要がある。 本校の児童の実態をつかむことができた。基礎基本の定着を図ることができている。発展的な問題、思考力を問う問題を解くことに抵抗を感じている。今後、校内研究で出た活動内容を授業で取り入れ、検証し、教職員間で共有していこうと思う。
7	17	5			
8	28	6	算数科における問いをもつ授業づくりとはどのような授業なのかをつかむ。	これまでの講義で学んだことをもとに、問いを持たせる授業づくりの流れを考える。	6月17日の校内研究で学んだことを生かして、児童に問いを持たせることを意識した指導案を作成することができた。作成した指導案を実際に授業を行うことで、これまでの校内研究で学んできたことをより深めることができたと感じる。
9	25	7	各ブロックで拡大校内研の指導案または、やまなしスタンダードの流れに沿った授業づくりについてのリーフレットを作成する。 拡大校内研の学習指導案の検討を通して、本時の授業への見通しをもち、参観の視点を確認する。 研究授業を通して、目指す子供像『課題を自分事として捉えて取り組む児童(問いをもつ)』を達成することができたかを確認する。	検証ブロックは、拡大校内研の学習指導案を検討する。授業づくりブロックは、リーフレットを作成する。 講師 山梨大学大学院 准教授 角田大輔先生を招聘して、拡大校内研の学習指導案を検討する。 5年生の算数科の研究授業を参観することで、目指す児童像、研究仮説を達成することができたかを検証する。	各ブロックで、これまでの校内研究を振り返った上で、学習指導案の検討、リーフレットの構成を考えることができた。 全体で拡大校内研の学習指導案を共有することができた。当日、教職員間で学び合うことができるよう、参観する視点を明確にしたい。 研究授業を参観することで、研究仮説、目指す子供像『課題を自分事として捉えて取り組む児童(問いをもつ)』を達成することができたかを確認することができた。授業で児童に問いを持たせることに難しさを感じる。再度、児童に問いを持たせるためには、どのような手立てを取り入れていくと良いかを教職員間で共有していこうと思う。
10	16	8			
11	13	9			

2 研究推進校が目指す児童の具現化への支援

月・日	鳥沢小学校 校内研究会	センター支援内容
4月10日	児童の実態把握（CRT調査、QUの結果把握） ICT操作方法の確認	
4月24日	今年度の校内研の概要確認	【学習会】 子供主体の授業づくりについて
5月22日	今年度の校内研究で目指す資質・能力について	
6月12日	探究的な学習（算数科）についての学習会	【学習会】 「児童が『問い』をもつ算数科の授業づくり」 講師 山梨大学アドバイザー 角田大輔准教授
7月17日	全国学力・学習状況調査（算数科）自校採点	自校採点の実施（目的、方法等の説明）
8月28日	算数科における問いをもつ授業づくり （2学期以降の単元について、学級担任が実際に授業づくりをする）	小学校チーム3名の指導主事参加
11月13日	拡大校内研究会 第5学年 算数	

4月24日【学習会】子供主体の授業づくりについて

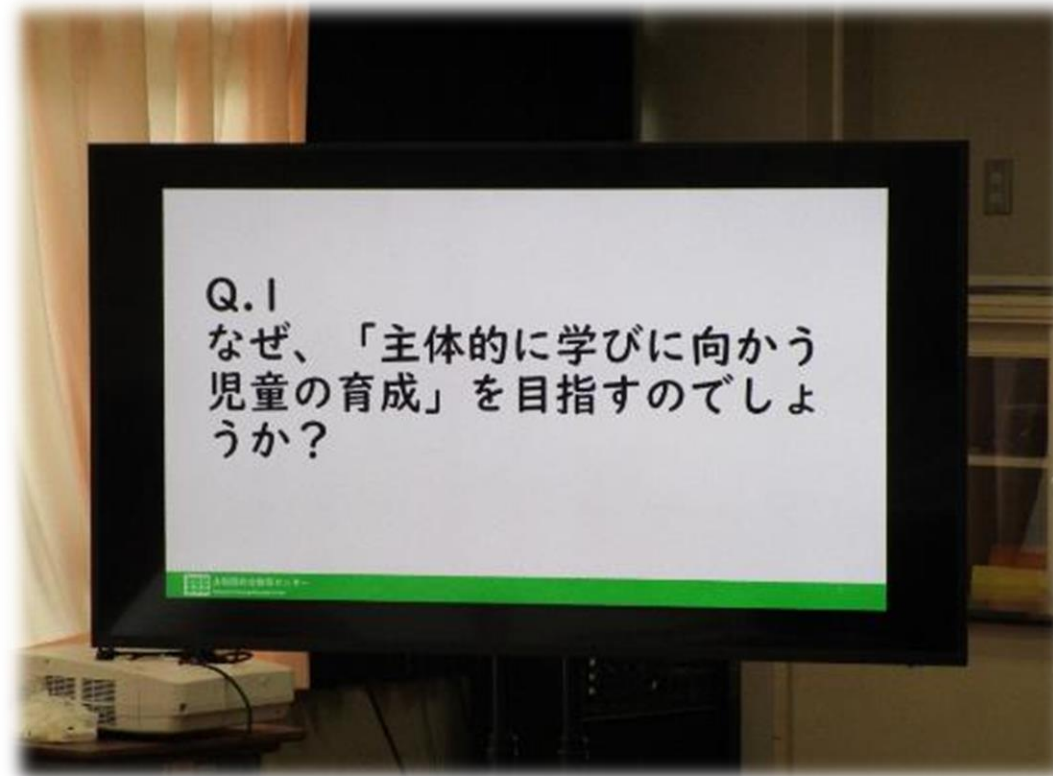
鳥沢小の先生方から

□主体的に学びに向かう児童の姿について

- ・問いをもち、解決していこうとする姿
- ・新たな課題に対して、既有の知識を用いて解決する姿
- ・粘り強く取り組む姿

□主体的に学びに向かう児童を育成する授業について

- ・子供が目標を立てる授業
- ・学びの過程を振り返り、自己を見直す授業
- ・他教科とつながる授業



鳥沢小 研究総論より

3 校内研究で目指す児童像

① 課題を自分ごととして捉えて取り組む児童 → (問いをもつ。)

② 学んだことを学習や活動につなげて考える児童 → (学習したことを振り返り、次の学習につなげる。)

6月12日【学習会】「児童が『問い』をもつ算数科の授業づくりについて」



山梨大学アドバイザー
角田 大輔 准教授

自ら問う力を育てたい



まず、教師自らが問いの構成を

中村享史「自ら問う力を育てる算数授業」1993明治図書

問 い	
既習事項を問う	今まで学習してきたことの何が使えるか 今まで学習してきたことの何と関連するのか
他の方法を問う	他に考えられないか 他によい方法はないか
根拠を問う	何をもとにしているのか どうしてこうなるのか
共通点・類似点を問う	どの方法にもいえることは何か この方法と似ていることは何か
相違点を問う	
一般性を問う	いつでもできるか／どんな場合でもできるか もっと簡単に表せないだろうか
発展性を問う	どこまでできるか 何かを変えても、変わらないことは何か
よさを問う	

6月12日【学習会】「児童が『問い』をもつ算数科の授業づくりについて」

鳥沢小の先生方から

【学んだこと】

- ・問いをもつ授業づくりにおいて、「根拠を問う」ことに意識をおいた授業づくりを行う。
- ・子どもに問いをもたせるために、教材の提示の方法や子どもが様々な考えをもつ余地を意図的につくる。

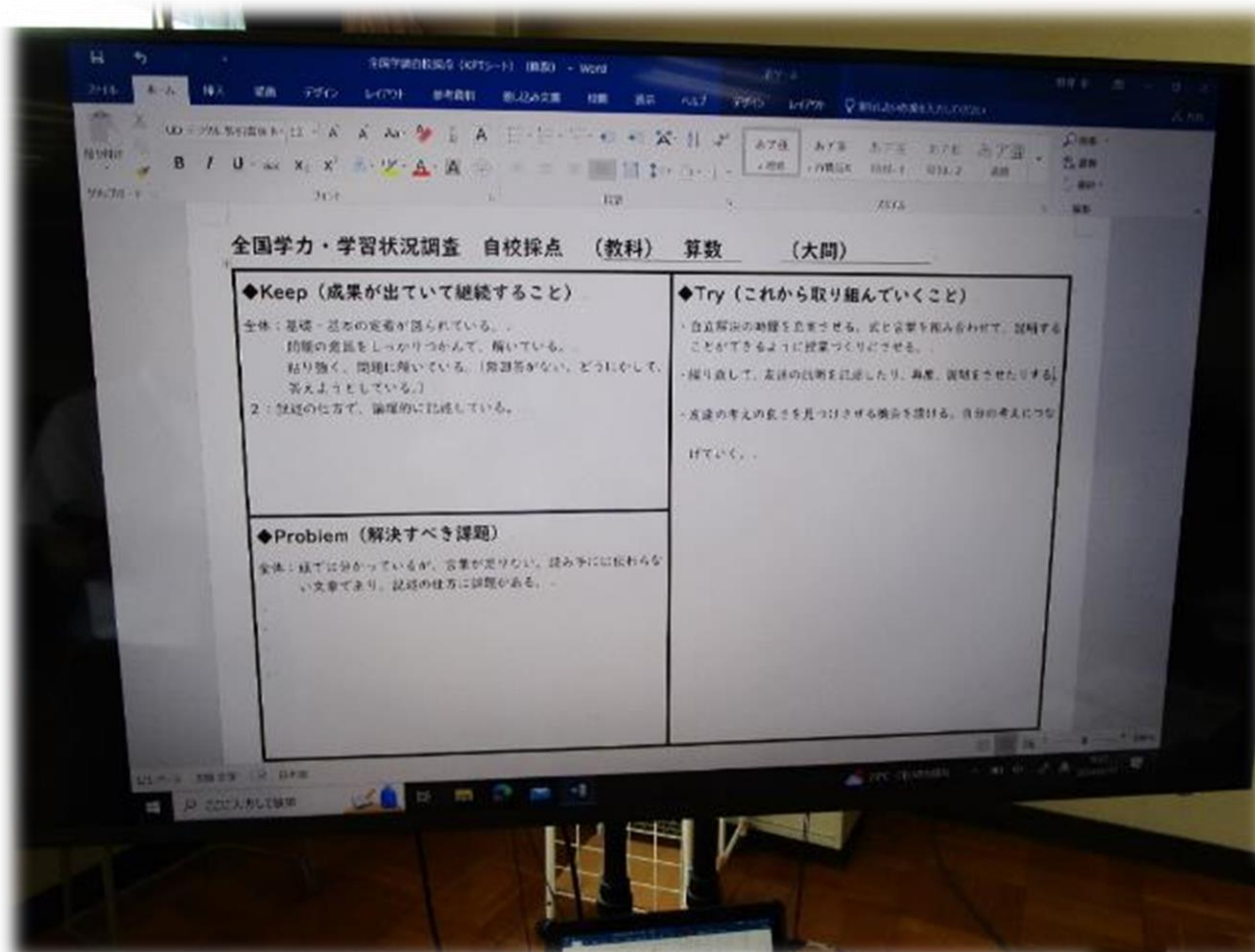
【明日からの授業で活用したいこと】

- ・本学級児の生活に結び付けた授業を計画する。
- ・教師から児童に問いをもたせ、徐々に児童から問いが生まれるような授業づくり、教材研究をしていく。



7月17日 全国学力・学習状況調査自校採点（算数）について

鳥沢小の先生方から



- ◆ **Keep** (成果が出ていて継続すること)
 - ・基礎・基本の定着が図られている。
 - ・問題の意図をしっかりとつかんで、解いている。
 - ・粘り強く、問題を解いている。

- ◆ **Problem** (解決すべき課題)
 - ・頭では分かっているが、言葉が足りない。
 - ・読み手には伝わらない文章であり、記述の仕方に課題がある。

- ◆ **Try** (これから取り組んでいくこと)
 - ・式と言葉を組み合わせ、説明することができるようにする。
 - ・友達の考えの良さを見つける機会を設け、自分の考えにつなげていく。

8月28日【授業づくり】算数科における問いをもつ授業づくりについて



鳥沢小の先生方から

【学んだこと】

- ・指導案を作成していく中で、**児童の実態を考**
えながら作成していくことが大切と感じた。
- ・既習事項を問うこと、根拠を問うことに**視点**
をおいた授業案づくりをどう行うか。



【明日からの授業で活用したいこと】

- ・子ども主体の授業を行うためには、子どもが
問いを持つことが大事で、**子どもが問いをも**
つことができるように発問を考える。そのため
に、まずは**教師が授業の中で「なぜ」、「どう**
して」という言葉を使っていく必要がある。

第2学年 算数科学習指導案

指導者：

1 日時 令和6年11月11日（月）2校時

2 本時の目標 3の段の九九の構成の仕方を理解することができる。

3 本時の展開

＊この2つの視点で、授業を仕組んでみましょう。

○既習事項を問う。→本時の学習で、今までに学習してきたことの何が使えるのか。

本時の学習は、今まで学習してきたことの何と関連するのか。

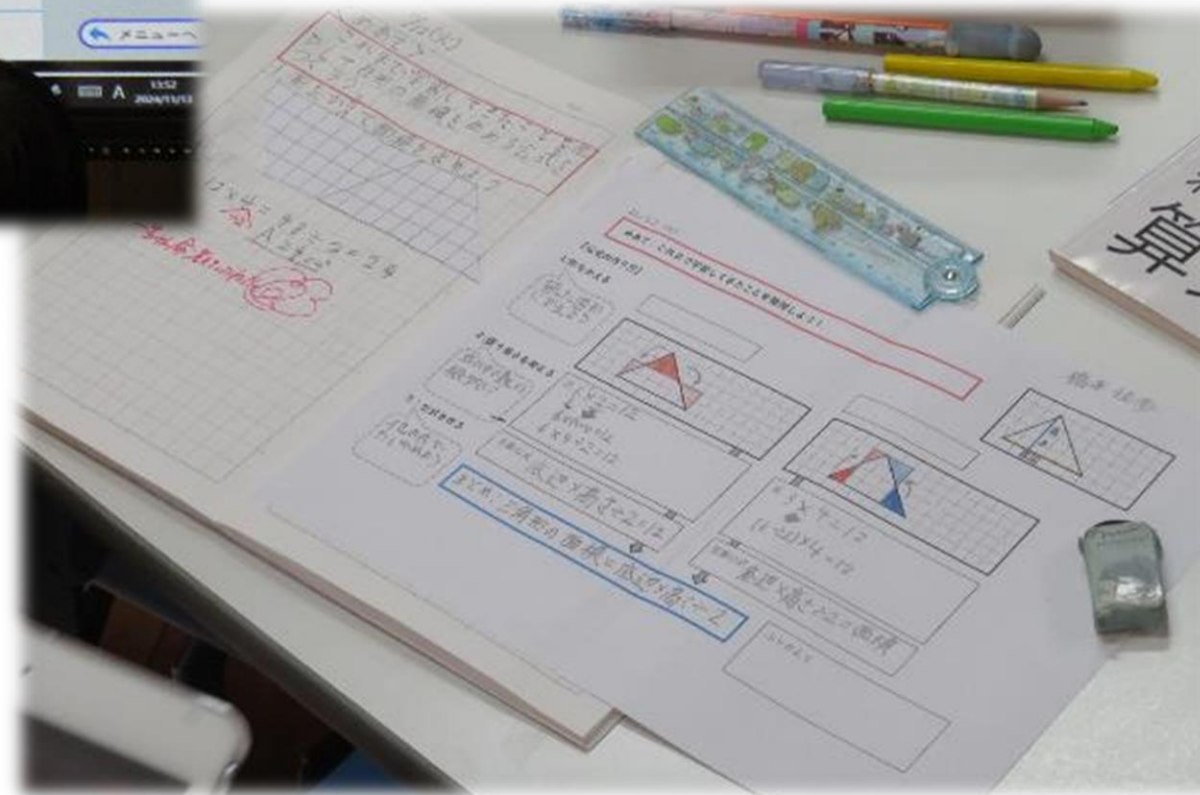
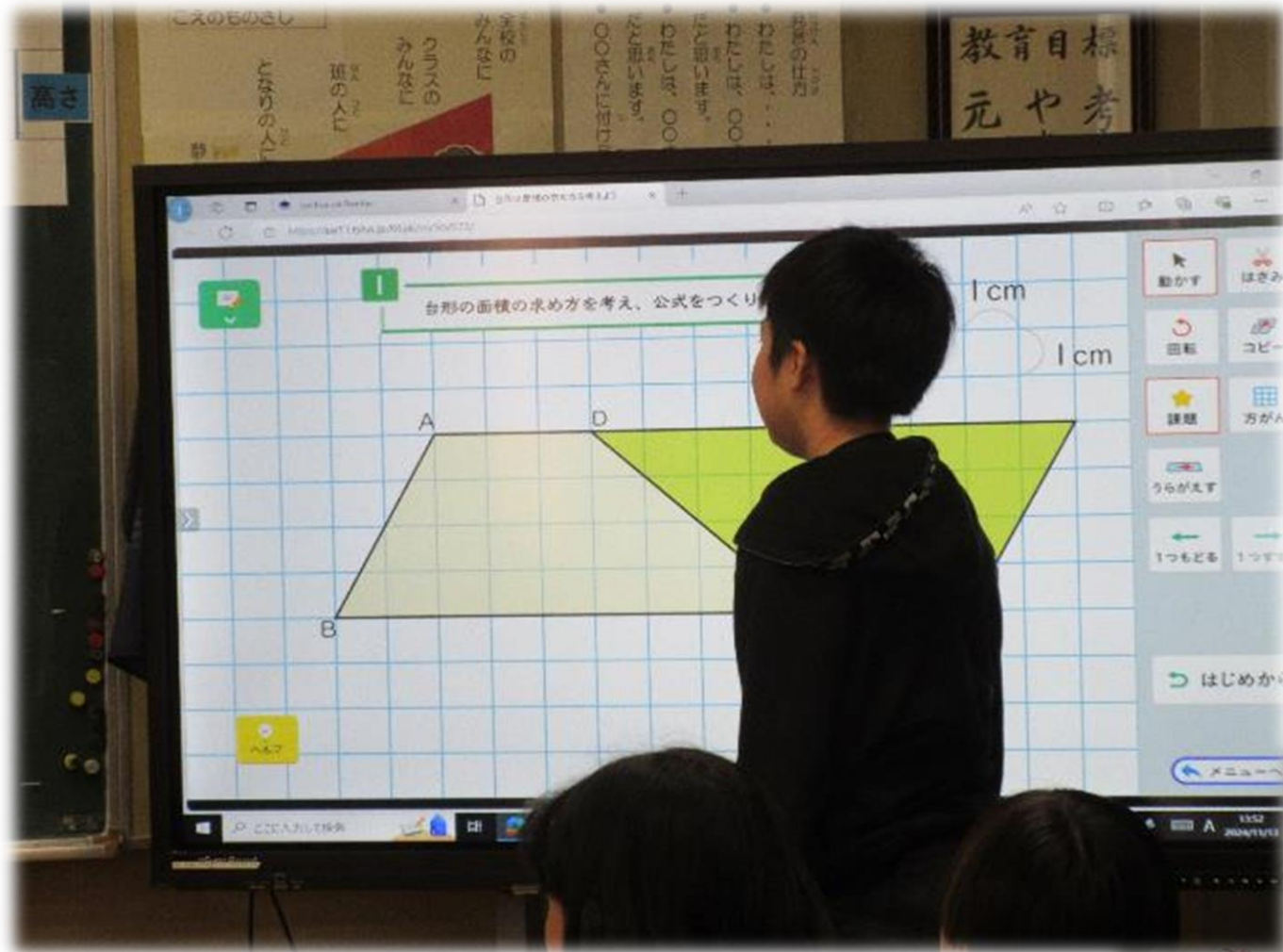
○根拠を問う。→課題に対して、何をもとにしているのかを探る。

どうして、このような答えになるのかを考える。

学習過程	学習活動	指導上の留意点	備考・評価
つかむ・見通す7分	1. 前時の復習をする。 2の段でどんな決まりがあったか確認する。 めあて 3の段の決まりを見つけよう。	- みんなで見つけた2の段の決まりを書いたものを黒板にはる。 5の段の決まりも一緒に掲示する。 5の段と2の段で見つけた決まりが3の段でも使えるか考える。	
追究	2. 3×4 までをノートにやる。	3×4までをノートにやるように伝える。	・ノート

5分	めあて 色をぬった部分の面積の求め方を考えよう！		
追究する・深める32分	③ ②の一つである「たしかめよう」の3 - ②の問題に取り組ませる。 ④ 自力解決 図や式でノートに表す。 ⑤ 集団解決 「根拠を問う」 ⑥ 友だちの考えをノートに書かせる。 ⑦ 練習の3に取り組む。	支援が必要な児童にP.125の2の問題を思い出させ、それを活用するように伝える。 終わった児童は、最初に提示した他の図形にも取り組ませ、根拠が分かるようにノートに書かせる。	ICTを活用し、図形を動かしたり、色を塗ったりして面積が分かる部分を視覚化させて、支援する。
まとめる8分	⑧ 振り返りを書かせる。 ⑨ 振り返りからまとめを書く。 ⑩ 児童の「問い」を取り上げる。	「図形の組み合わせ方を考えれば求めることができることや面積の求め方がわか部分をもとにして考えることができる」ことを振り返りに書けるように進め	

11月13日 拡大校内研究会について



参加者から

- ・授業では、既習事項、根拠をおさえることの大切さを改めて感じました。
- ・日々の積み重ねや、既習事項に立ち返ることの大切さを改めて学ぶことができた。
- ・指導と評価、授業の進め方、単元の進め方、児童の見取りなど多くのポイントが、本日の授業をきっかけに話題になり、学ぶことができた。

研究主任から

2年生 算数「かけ算」の授業実践より

◇「既習を問う」姿

3の段の九九のきまりを見つける授業場面で...

「既習を問う」

1つ分の数 × いくつ分 = ぜんぶの数

5の段	2の段
ここに1つ分の数を をたすと、つぎのこたえになる	前のこたえに1つ分の数を をたすと、つぎのこたえ
5+5+...で計算できる	2+2+...で計算できる
一のくらいが、 5, 0, 5, 0...となっている	2, 4, 6, 8, 0と つづいている
時計みたい	

② 3の段のきまりを見つけよう。

① 3を5回たす。

3 × 1 = 3
3 × 2 = 6
3 × 3 = 9
3 × 4 = 12
3 × 5 = 15
3 × 6 =
3 × 7 =
3 × 8 =
3 × 9 =

3+3+3+3+3=15

3+3+3+3+3+3=18

3+3+3+3+3+3+3=21

3+3+3+3+3+3+3+3=24

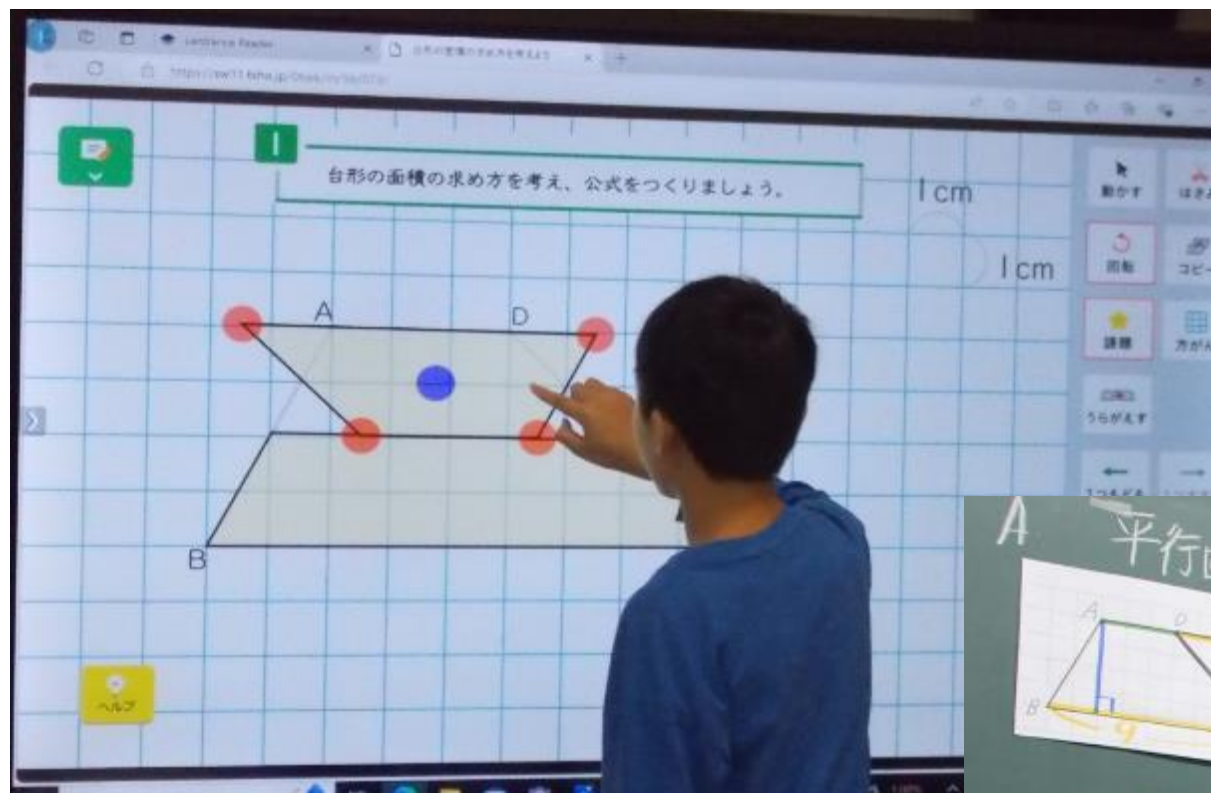
3+3+3+3+3+3+3+3+3=27

3+3+3+3+3+3+3+3+3+3=30

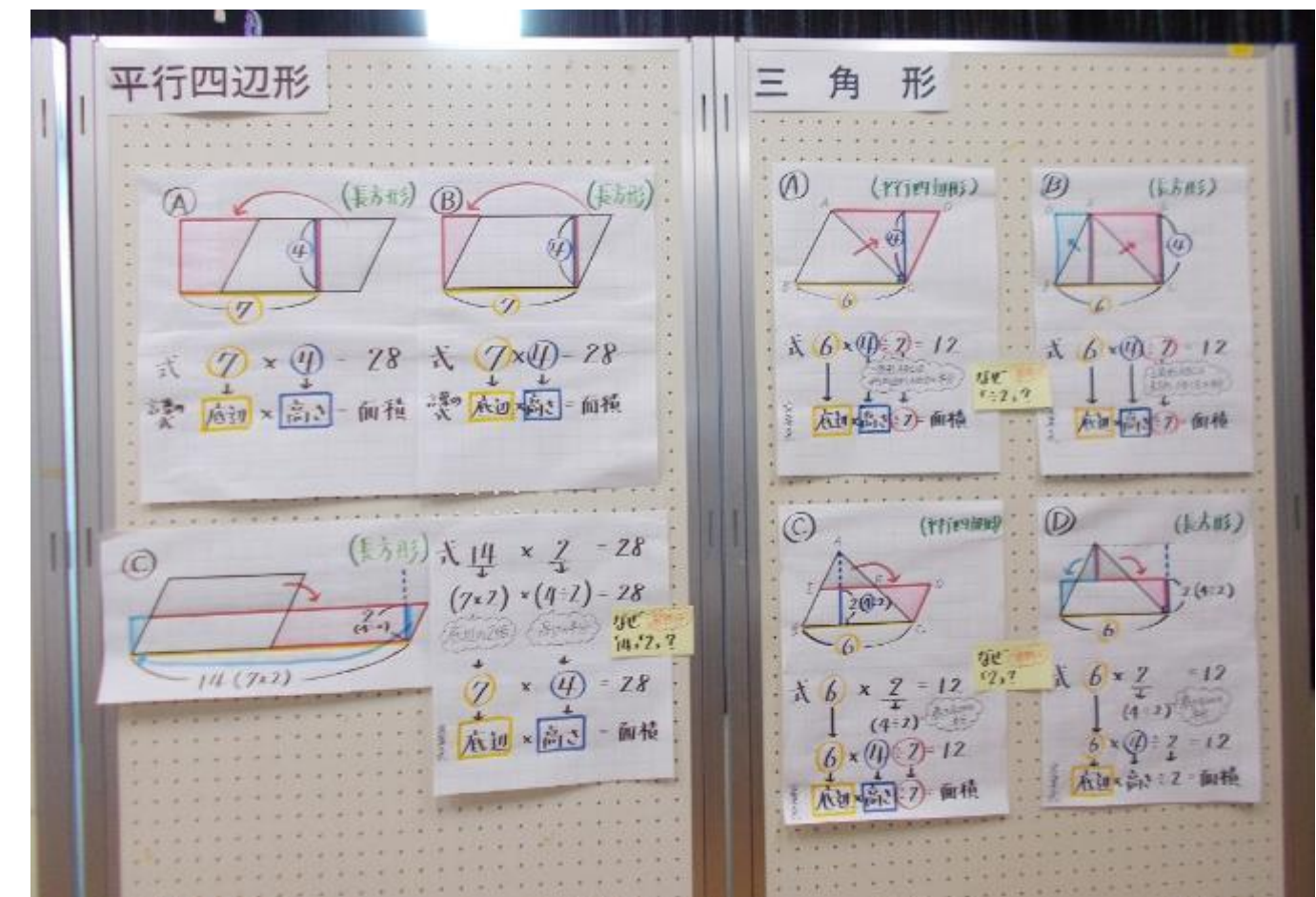
研究主任から

5年生 算数「四角形と三角形の面積」の授業実践より

◇「根拠を問う」姿



根拠を明らかにし、筋道立てて説明する姿



研究主題「教員の授業改善につながる校内研究支援の在り方」

副題 ～研究推進校が目指す児童の具現化と教員一人一人の自律的な学びに資する校内研究支援を通して～

研究推進校が目指
す児童の具現化に
資する支援

教員一人一人の
自律的な学びに
資する支援

令和6年度山梨県学校教育指導指針
～重点を置きたい主な取組～



学習指導要領

山梨県学校教育指導指針

確かな学力の育成 豊かな心の育成 健やかな体の育成
地域や世界で活躍できる人材の育成 特別支援教育の充実

学級経営・HR経営の充実

山梨県教育大綱（令和5年度策定） 山梨県教育振興基本計画（令和6年度策定）

子供主体の授業への授業観の転換

現状の
一斉授業
スタイル

多様な他者と協働したり、自ら自己調整したりして学習を進めていく「子供主体」の授業への転換が図られることにより、子供一人ひとりの関心・意欲や特性にもとづいた学びを実現する。

◎ 授業において1人1台端末などのICT環境を活用した、主体的・対話的で深い学びを充実する

◎ 課題解決型の探究活動やSTEAM教育等の教科等横断的な学びを充実する

文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

山梨県教育振興基本計画（R6年策定）より

子供主体の授業への授業観の転換

現状の
一斉授業
スタイル

多様な他者と協働したり、自ら自己調整したりして学習を進めていく「子供主体」の授業への転換が図られることにより、子供一人ひとりの関心・意欲や特性にもとづいた学びを実現する。

- ◎ 授業において1人1台端末などのICT環境を活用した、主体的・対話的で深い学びを充実する
- ◎ 課題解決型の探究活動やSTEAM教育等の教科等横断的な学びを充実する

山梨県教育振興基本計画（R6年策定）より

文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して



教員一人一人の自律的な学びへの支援

令和4年答申「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について 総論「4.(1)『新たな教師の学びの姿』の実現」から

個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められる命題である。つまり、**教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形**であるといえる。(中略)

教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく**探究的な学び**を、研修実施者及び**教師自らがデザイン**していくことが必要になる。

教師の力量を高めるために、校内研究会
でどのような工夫をしていますか？

授業研究の進め方

～学んだことを個々の授業に取り入れよう！～

指導案検討

- ☐ この単元（授業）で児童生徒に付けたい資質・能力が明確になっているか
- ・研究主題、研究仮説等と結び付いている
 - ・児童生徒の実態（レディネス）を捉えている
 - ・児童生徒に付けたい資質・能力につながる学習課題になっている
 - ・教材の特性が生かされている

- ☐ 本時の目標を達成できる学習展開になっているか

- ・児童生徒が学習課題を把握する手立てがある
- ・自分の考えをもつための時間を確保している
- ・友達と考えを交流する場面で話し合う内容を具体的に想定している
- ・明確な板書計画を想定している
- ・指導案の中に、児童生徒の姿が記述されている

- ☐ 育成したい資質・能力の実現状況を見取る学習評価になっているか

- ・目標を実現した児童生徒の姿を具体的に想定した観点別評価規準を設定している
- ・評価規準に対応した評価方法の工夫がある
- ・学習評価を授業改善に生かすことを想定している（指導と評価の一体化）

研究授業

- ☐ 授業評価の観点が一貫しているか
（授業観察の前）

- ・校内研の研究主題、研究仮説等と結び付いている
- ・全教員で共有している

- ☐ 児童生徒に付けたい資質・能力が付いているか

- ・授業評価の視点を意識して授業を観察している

【児童生徒を観察する視点】

- 児童生徒の学びを観察する
例）ノート記述
発言
反応 等

【教師を観察する視点】

- 指導する際の手立てや工夫等を観察する
例）発問
板書
コーディネート 等

- ☐ 授業づくりが
進むか

- ・協議
合
っ
て
・児童
ノ
ー
ト
的
な
合
っ
て

- ☐ 全教
参加

- ・ワー
ク
取
り
加
し
・自分
で発

- ☐ 授業
成果

- ・一人
取り
・全校
改善
する

個々の授業研究へ

- ☐ 授業研究で明らかになった成果や改善策を、授業に生かしているか

『明日の授業に生かすシート』

～学んだことを一人一人の授業に取り入れる～

氏名 _____

授業後研究会

- ☐ 授業の振り返りから、成果や課題、改善策をもてたか

- ・一人一人が自分の授業に取り入れたい手立てをもつ
- ・全校体制で取り組む授業改善に向けた手立てを共有する

本日の授業研究で明らかになった「有効な手立て」や「改善策」は何でしたか？

個々の授業研究へ

- ☐ 授業研究で明らかになった成果や改善策を、授業に生かしているか

- ☐ 取り入れたことを振り返っているか
・教師自身や児童の変容を見取る

- ☐ 全教員で取り組んでいるか
・校内研で実践を報告する時間を設け、個々で取り組んだことを共有する

明日からの授業や一人一実践等で、どのように活用しますか？

今後、学校や学年として、どんなことを検討しておきたいですか？



年間を通しての

先生たちの学び
の充実に向けて

見通しと振り返り

RO年度 学びの充実シート		名前
学校教育目標		
研究主題		
今年度重点的に育成を目指す資質・能力		
【見通し】育成を目指す資質・能力に向けて、取り組もうと考えていること		
◆Keep（よさ・継続すること） .	◆Try（今年度取り組んでいきたいこと） .	
◆Problem（課題） .		
校内研究会から学んだことも明日の授業に生かそう！ ～授業アップデート～		
月	日	授業
		学んだこと(授業で明らかになった有効な手立てや改善策など)
		明日からの授業で活用したいこと
		今後、検討したいこと
【振り返り】		
◆Keep（よさ・継続すること） .	◆Try（今後取り組んでいきたいこと） .	
◆Problem（課題） .	◆次年度に向けて学びたい内容や受講したい研修等 .	

教員一人一人の自律的な学びへの支援

◇本シート活用の目的・・教員が校内研究における学びを日々の授業に結び付けることを目的に活用する。

【見通し】と【振り返り】を明確にもち、自身の授業改善を図るようにする。

R〇年度 学びの充実シート

名前

学校教育目標

研究主題

今年度重点的に育成
を目指す資質・能力

・学校教育目標や研究主題を意識することで、常に目的に立ち返り校内研究を進めます。

【見通し】 育成を目指す資質・能力に向けて、取り組もうと考えていること

◆Keep（よさ・継続すること）

◆Try（今年度取り組んでいきたいこと）

・

◆Problem（課題）

・

・自己の目標を設定し、見通しをもち校内研究に取り組みます。
・【見通し】を記述するには、児童の実態把握が大切です。新年度がスタートし、5月頃（第2回校内研究会あたり）に作成することが望ましいです。
・校内研究会の中で作成し、学年・ブロック等で共有すること考えられます。

教員一人一人の自律的な学びへの支援

校内研究会から学んだことを明日の授業に生かそう！ ～授業アップデート～

月	日	授業	学んだこと(授業で明らかになった有効な手立てや改善策など)	明日からの授業で活用したいこと	今後、検討したいこと
6	20	算数 4年	対話的な活動において、自由に考えを交流する場面と、話し合いの柱を意識させる場面の両方を使い分けることが大切だと感じた。	一つの考えだけではなく、様々な考え方を用いて問題を解くことで深い学びにつながるようにしたい。	対話的な活動を通して、どのように考えを深めていくか。
10	15	国語 1年	全体で共有し、様々な考えをつなぐ。	子供のつぶやきを拾い、つなげていく児童主体の授業づくり。	対話的な活動では、どんな場面で、何を目的として話し合うのか。

授業で明らかになった手立てや改善策（Check）、自身の授業で取り組みたいこと（Action）を継続して記述することで、PDCAサイクルを意識した授業改善につなげることができます。

成果や課題を振り返り、次年度への見通しをもつことで、継続的な授業改善につなげます。

全体での校内研の総括をする際に、個人の【振り返り】の記入をもとに、小グループでの交流にも活用できます。

【振り返り】

◆Keep（よさ・継続すること） .	◆Try（今後取り組んでいきたいこと） .
◆Problem（課題） .	◆次年度に向けて学びたい内容や受講したい研修等 .

～教員Aの記述から～

【見通し】育成を目指す資質・能力に向けて、取り組もうと考えていること

◆Keep（よさ・継続すること）

- ・意欲的に発言し、前向きに授業に取り組むこと。

◆Problem（課題）

- ・疑問に思ったことを自分から進んで調べたり、考えたりすること。

◆Try（今年度取り組んでいきたいこと）

- ・次時につながるふり返りを書かせる。
- ・ふり返りに「問い」を書かせる。
- ・これらのことをいかした授業を展開する。

3 教員一人一人の自律的な学びへの支援

～教員Aの記述から～

シートを継続的に活用することで
授業改善につながるPDCAサイクルの確立

月	校内研内容	記 述 内 容
6	算数科学習会	<u>スモールステップを意識しすぎると問いが出づらいことから、あまり「スモールステップ」にこだわる展開はやめる。</u>
7	全国学力学習状況調査自校採点	自分の考えを説明する時にその <u>根拠を問いながら思考を深めさせる</u> ようにする。
8	算数科授業づくり(2学期の授業実践に向けて)	<u>「根拠を問う」ことに視点を当てた授業づくり</u> をすることができた。教科書のデジタルコンテンツを活用して個別最適化も進められることに気づいた。
10	指導案検討会	試行錯誤する時間をたくさんとる中で、児童同士で、不要なところをそぎ落としながら公式を生みだしていく。教師主体ではなく児童主体であるという意識を常に持つようにする。
	教諭Aの授業実践	・自分の思考を表現するのに、ICTが良いか紙が良いかを見極めること大切である。 ・ <u>児童の考えを共有する中で個人の考えを丁寧に問うことの大切さ</u> について再度確認できた。 ・ <u>子どもが下学年で学んだことを今の学習に結び付けて考えられるように</u> 、今までとの違いなどを丁寧に問うようにする。
11	拡大校内研究会(授業者は教員Aとは別の教諭)	児童主体の授業を進めるために、導入でわくわくするような仕掛けをしたり、集団解決する際、違う考え方をする児童と自分の思考とのずれを相手に問いながら考えを深めたりしていけるようにする。

教員一人一人の自律的な学びへの支援

「学びの充実シート」について 鳥沢小の先生方のご意見

- 一度立ち止まって再考するよい機会になった。書くことで次の授業でどうすればよいかが意識でき、有効だった。
- 個人的な記録ではなく、指定されている形式で記録を残したので、研究とその継続性に親和性の高い記録・反省となったと感じている。
- 学びの充実シートに記入することにより、その時間何を学んだのか、自分の課題は何か、その課題を解決するためにはどのような手立てが必要なのかをじっくりと考えることができた。このようにふりかえることにより、より充実した研究会になったと感じた。
- 記録に残すことは有効だが、それに入力すること自体に負担を感じた。

校内研究会に省察の時間を含める

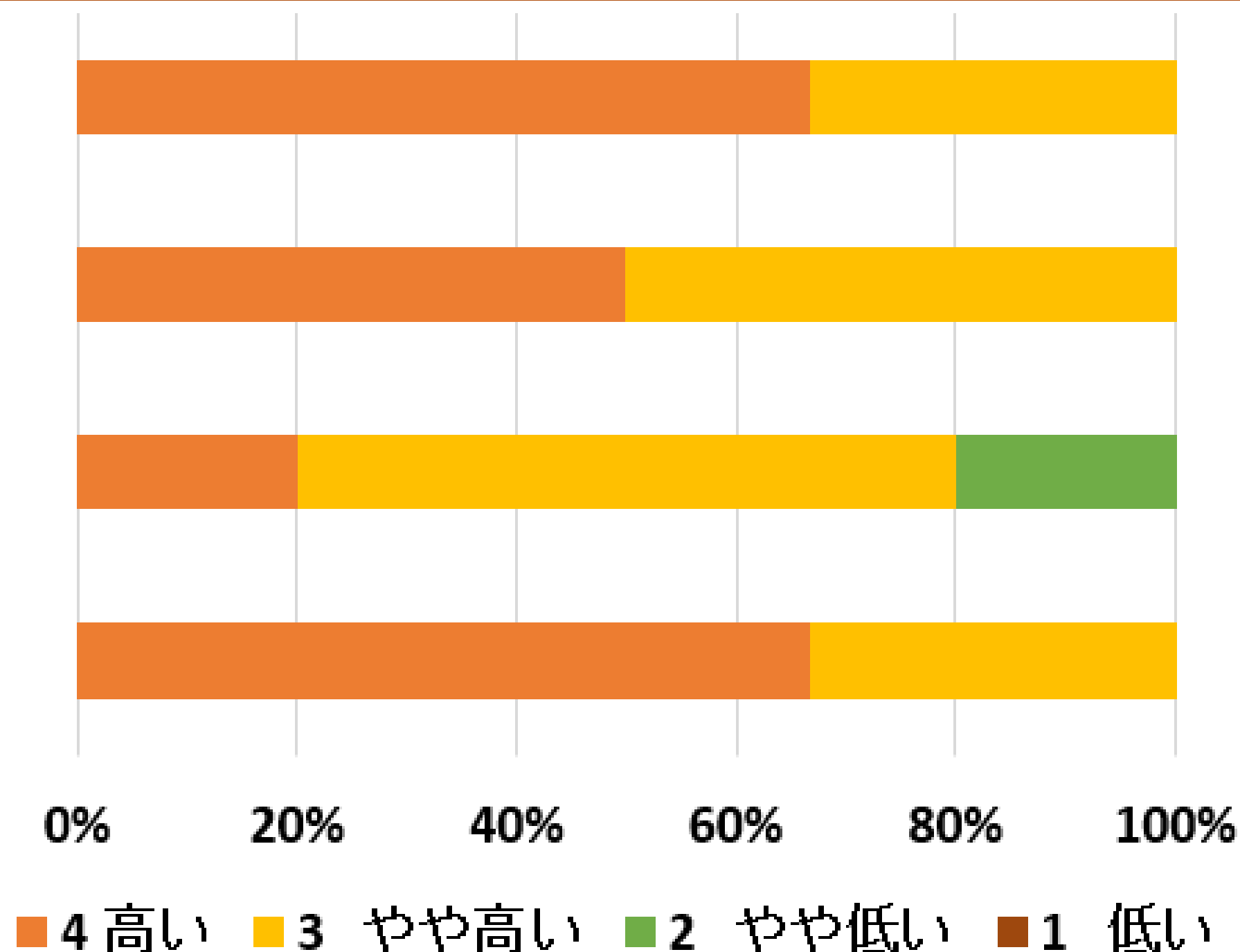
子供の姿を授業記録等から捉え直し、資質・能力
のイメージを共有する：研修プランA3

流れ

研修の説明	【全体】	2分	研修の目的、流れ、時間、形態、協議の視点を確認する。
授業の振り返り	【全体】	3分	授業者より、提案した授業について、協議の視点を中心に振り返る。
質疑応答	【全体】	5分	特に、協議に向けて必要と思われる点について、質疑を進める。
協議	【グループ】	30分	担当した学習班の子供の姿を出し合い、模造紙に書き出し、さらに、 話題にしたい子供の姿を絞り、協議の視点に沿って進める。 ※授業者や研究主任らはグループ間を回り、協議を支援する。
共有	【全体】	15分	グループの代表者が、グループ協議について協議の視点に沿って発表 する。
方向性の明確化	【全体】	15分	グループ発表の内容を、成果と課題に整理し、今後の方向性を明確 にする。
省察	【個人】	10分	今後の方向性を踏まえ、取り組むべきことを明らかにする。

鳥沢小学校 研究推進校に関するアンケート（満足度の自己評価）

- 1 校内研における学習会等の実施について
- 2 校内研における研究授業の実施について
（指導案検討、研究会）
- 3 「学びの充実シート」の活用について
- 4 校内研への取組の姿勢について
（主体的に取り組めたか）



（回答者数12名）

成 果

- ・各種学習会や全国学力・学習状況調査の自校採点を通して授業改善を図ることにより、**研究推進校が目指す児童の姿の具現化に寄与することができた。**
- ・教員Aの事例のように、「**学びの充実シート**」を活用することで、**教員自身が授業改善のPDCAサイクルをまわすことにより、日々の授業改善に生かす姿が見られた。**
- ・一年目の年度末に、校内研の成果や課題を研究推進校と本センターとが共有・検討したことにより、**研究推進校が二年目の校内研究に見通しをもって取り組むことができた。**

課題

- ・研究推進校の先生方の振り返りに、「時間にゆとりがないと教師主導型になってしまうことがある」、「学習感想を充実させられなかった」等が見られた。今後も、**研究推進校の課題を的確に把握し、きめ細かい伴走支援の在り方を探ることが必要。**
- ・**教員の自律的な学びを促進するシートの改善**及び負担感を軽減するための**効果的な活用方法の開発。**

令和7年度 小学校チーム

総合教育センター研究推進校

募集

指導主事が校内研究をサポートします。

校内研究
への
支援

学力
向上

指導力
向上

教員の自律
的な学び

授業・学校づくり領域

小学校 **1**校 募集

・校内研究の活性化に向けた支援
・山梨大学と連携

おわり



ご清聴ありがとうございました